

# 新潟県立がんセンター新潟病院 地域医療連携だより

NEWSLETTER



平成 30 年春号



## 基本理念

県民をはじめとする全ての患者さんに、最善のがん医療を提供します。

## 基本方針

1. 常に診療情報を開示して、患者さんとの信頼関係をもっとも大切にします。
2. がん診療連携拠点病院として、すべての医療機関と連携を密にします。
3. がんの研究を行うとともに、患者さんのための医療人の育成に努めます。
4. 病院運営の適正化と効率化に努めます。



## contents

院長あいさつ

がん遺伝子検査のご紹介

がん看護外来のご案内

地域連携・相談支援センターからのお知らせ

緩和ケアセンターのご紹介

平成 30 年 5 月外来診療予定表

## 院長あいさつ



新潟県立がんセンター新潟病院 院長 佐藤 信昭

平素より当院との病診連携に際して多大なご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。日本人は年間約 100 万人ががんになり、がんサバイバー（体験者）は 700 万人と推定され、いずれ、1000 万人の時代を迎えます。がんは誰でもかかる可能性のある病気です。

がん対策は 4 つの柱で構成されています。一つ目はがんの予防、二つ目はがん検診、三つ目はがん診療、四つ目は緩和ケアの充実です。緩和ケアはがん専門病院であるがんセンターとして欠かせない領域です。緩和ケアにさらに力を入れるため、今年度の事業として緩和ケア病棟の新設を計画しています。がんと診断されると人は強く不安や悲しみを感じ、時に疎外感を覚えます。がんと診断された時から、肉体的苦痛はもちろん、精神的苦痛へのケアを提供する必要があります。

平成 30 年 4 月 13 日垣添忠生先生（公益財団法人 日本対がん協会 会長）が全国縦断がんサバイバー支援 walk の途中に当院を訪問され、がんサバイバー、支援者、職員と懇談しました。がんサバイバークラブはがんサバイバーが決して孤立することがないように、治療中や治療後の全経過を支援し、がんサバイバーが感じる孤立感や無力感を無くする活動を行っています。その運動をさらに広げるため、垣添会長自ら全国がんセンター協議会の 32 施設を歩いて訪問しておられます。平成 30 年 2 月 5 日に九州がんセンターからスタートし、最終の目的地である北海道がんセンターまで、全行程 3500 km の予定です。がん患者の「治りたい」、「普通の生活がしたい」との気持ちに寄り添い、「支えたい」という気持ちは、超高齢・少子化、人口が減少する日本で、「だれにでも優しい社会」につながるかも知れません。

国民病とも言えるがんに対してわが国のがん対策は平成 18 年 6 月に成立したがん対策基本法をもとに国のがん対策基本計画により進められています。昨年、第 3 期の基本計画が閣議決定され、現在、がん診療連携拠点病院の要件が見直されています。現行の整備指針では 2 次医療圏に複数の拠点病院があることから、地域拠点病院を診療機能に依拠して、「地域がん中核拠点病院（仮称）」、「地域がん診療連携拠点病院（仮称）」、「準地域がん診療連携拠点病院（仮称）」の 3 段階に分類することや、指定に関する第三者評価の活用などが議論され、拠点病院にはより質の高いがん診療が求められています。

緩和ケア病棟を早期に稼働させ、新潟県がん診療連携拠点病院としての責務を果たし、信頼していただけるがんセンターをめざして、精一杯努力してまいります。

先生方のご指導とご支援を今後ともお願い申し上げます。



# がん看護外来のご案内

皮膚・排泄ケア認定看護師 武石礼子

私は長く勤務していた消化器外科病棟で、多くのストーマ造設患者さんと関わったことがきっかけで、皮膚排泄ケア認定看護師になりました。昨年度より褥瘡管理専従になり、患者さんが入院生活で欠かせないベッドマットレスの選択や、創傷被覆材の選択など褥瘡に関することだけでなく、がんによる皮膚障害や、血栓予防のための弾性ストッキング装着による医療機器関連圧迫創傷などのケアなど、全ての皮膚トラブルに対応しています。

外来通院の患者さんには、泌尿器科外来のストーマ外来(毎月第2・4週金曜午後)を担当し、がん看護外来(毎月第2週午後)では他の皮膚排泄ケア認定看護師と交代でがんによる皮膚ケアについて対応しています。また消化器外科外来では毎週金曜日にストーマに関する専門的な研修を受けた看護師が交代で対応しています。当院には平成28年度より包括ケア病棟が新設されましたが、ストーマ造設患者さんが包括ケア病棟に転棟すると、専門病棟以外でのケア指導が必要になるため、私が介入することが多くなりました。

近年ストーマ造設患者の高齢化や独居、在院日数の短縮で装具交換手技が十分に確立していない状態で退院になることで、訪問看護ステーションやデイサービスで当面の装具交換をお願いすることが増加しています。昨年ストーマ保有患者さんの退院前カンファレンスに参加したときに、担当の訪問看護師さんと直接お会いして、細かな手技まで確認していただけることが非常に有効でした。ストーマケアがきちんと継続されていることを、その後ストーマ外来を受診した患者さんの良好なストーマ周囲皮膚状態を診て実感しています。



皮膚は全身を覆って人間を外的刺激から守り、ターンオーバーを繰り返して、常によい状態を維持するためにメンテナンスされています。しかし当院でがん治療を受けている患者さんは皮膚が脆弱になり、様々な症状になって表れます。それには皮膚を通して体から発せられているサインをキャッチして、病気に専念できるよう予防的に皮膚ケアを実践していくことが必要ですので、もっと皮膚ケアのがん看護外来を活用していただきたいと思っています。



終末期のがん患者さんの仙骨部の褥瘡ケアをしたあとに、「あー気持ちよかった。」と言っていたことがありました。体のほんの一部分をケアしただけなのに皮膚刺激が気持ちよさに繋がることを実感出来たことから、治療的皮膚ケアが必要になった場合やストーマ管理においても、患者さんに負担にならないような苦痛緩和や身体消耗に配慮したケアに努めていきたいです。

# がん遺伝子検査のご紹介

病理部 川崎隆



病理部スタッフ同(2018.3.29)

当院のがん遺伝子検査は 1990 年代に研究部において始まりました。当初は多分に研究的でしたが、2000 年代になり肺がんの EGFR 遺伝子異常とイレッサの薬剤効果の関係が明らかになってから臨床に密接なものに変わりました。

現在では病理部の検査技師 2 名が専属で遺伝子検査を行っています。

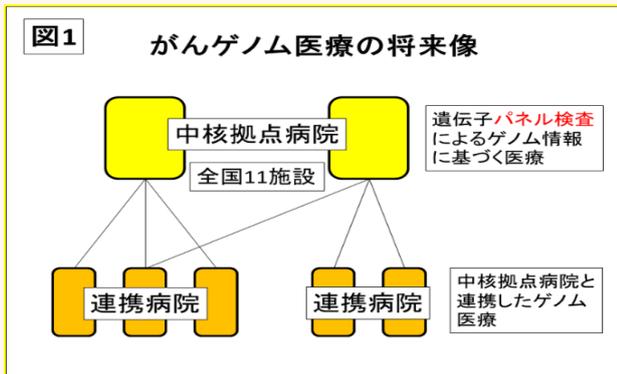
2010 年には胃がんの腹腔内洗浄液からの CEA 遺伝子の検出を本格化し、2013 年に定性 PCR に加えて定量 PCR を始めています。2012 年にはリンパ腫における免疫関連遺伝子再構成の検出、軟部腫瘍における融合遺伝子の検出を開始しています。また、同年大腸がんの RAS 遺伝子解析を院内実施しました。肺がんの EGFR 遺伝子解析と GIST（消化管間質腫瘍）の KIT/PDGFRα 遺伝子解析は、2013 年から院内実施となっています。

がん遺伝子検査の項目と検査数の年次変化は表 1 に示しました。RAS 遺伝子と融合遺伝子は過去の症例の検索のため検査数に変動がありますが、年間検査数はおよそ 1500 件です。（表 1）

**表1** がん遺伝子検査の項目と検査数の年次変化

	2014年	2015年	2016年
胃がん CEA遺伝子	464	556	926
リンパ腫 IgH, TCR遺伝子	163	121	168
軟部腫瘍 融合遺伝子	33	327	25
大腸がん RAS遺伝子	73	334	162
肺がん EGFR遺伝子	68	175	200
消化管間質腫瘍GIST KIT/PDGFRα遺伝子	34	30	22
その他	9	29	34
合計	844	1572	1537

病理部で行っているがん遺伝子検査は非遺伝性腫瘍が対象で、後天的に起こった遺伝子異常を検索しています。これに対して遺伝性腫瘍は、生まれつきある遺伝子異常に起因するもので、遺伝性乳腺卵巣がん(HBOC)やリンチ症候群(大腸がん)などが知られています。遺伝性が疑われる場合の遺伝子検査は慎重に進めて行く必要があります。がん遺伝子検査を院内で行うメリットは少なくとも2つあります。1つはがん細胞の多寡に関わらずきめ細かい遺伝子検索が可能であること、もう1つは検査依頼から報告までの時間短縮です。肺がんEGFR 遺伝子解析は、外注では報告まで7~10日要しましたが、院内実施後は2~5日と短縮されました。最近では、治療薬と検出キットが対応関係にあるコンパニオン診断(CoDx)が普及して来ています。EGFR 遺伝子解析がCoDxであれば保険点数は2500点ですが、それ以外の方法では2100点となります。院内実施できず外注検査になるCoDxの場合は、臨床側と連携し検査をスムーズに進めて行く必要があります。



2018年2月に国立がんセンター中央病院など全国で11施設が“がんゲノム医療中核拠点病院”に指定されました。がんゲノム医療とは、遺伝子パネル検査で明らかになったがんの遺伝子異常に応じて治療法を選択する個別化医療です。これを包括的に行うのがゲノム医療中核拠点病院です。(図1)

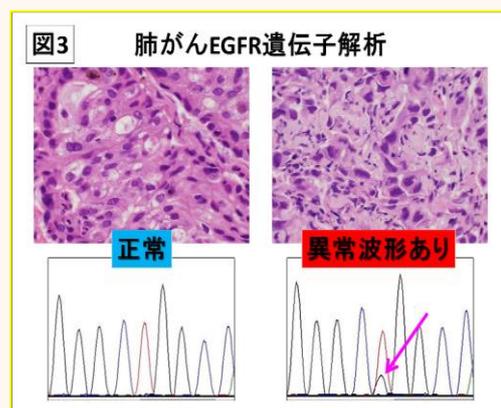
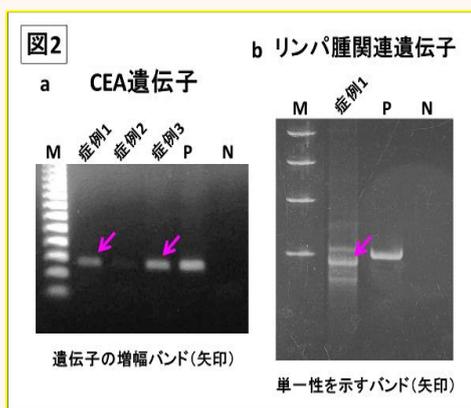
遺伝子パネル検査は、複数のがん関連遺伝子を同時に解析できる診断薬で、次世代シーケンサーにより短時間で解析できます。これまで病院ごとに行って来たがんの遺伝子検査や治療法の選択もこのような大きな流れに集約される可能性があります。今後の展開を注意深く見て行かなくてはなりません。

これまで私たちは、がん遺伝子検査の院内実施と検査項目の拡充に力を入れて来ました。遺伝子検査の進化はめざましく、これを取り巻く社会情勢も大きく変化していますが、診断・治療に有用な遺伝子解析を今後も進めて行きます。

**\*補足**

CEA 遺伝子の増幅は、PCR を行いバンドの有無で確認します。リンパ腫と軟部腫瘍の特異的な遺伝子は、PCR を行いバンドの有無で確認します。(図2)

EGFR 遺伝子, RAS 遺伝子, KIT/PDGFRα 遺伝子は、遺伝子の配列の異常について塩基配列を決定(シークエンス)して確認します(図3)



## 地域連携・相談支援センターからのお知らせ

地域連携・相談支援センター 副センター長 田村恵美子

4月1日より地域連携・相談支援センター副センター長に着任いたしました田村です。皆さまには日頃より当院との病診連携に際し、多大なる御協力を賜り心より感謝申し上げます。

地域包括ケア時代を迎え、がん治療を受けながら地域で生活する患者さまが多くいらっしゃいます。また、今後は高齢のがん患者さんが増加していくこととなります。就労支援を含めたがん相談支援業務、退院支援・調整業務等に一層力を入れ、地域の医療機関、介護機関や関係機関の皆さまと更なる連携を強化し、患者さん、ご家族へ提供するケアの質向上を目指して参ります。

地域連携・相談支援センターは、患者さんの病院受診前から退院後の先まで深く関わります。当センター職員一丸となり信頼される病院を目指し努力して参ります。当センターへのご意見、ご要望がありましたらお知らせください。今後ともよろしくお願い申し上げます。

### 地域連携・相談支援センタースタッフ



### 病診連携スタッフ



副看護師長 小池みどり

4月より地域連携室・相談支援センターに配属となりました小池です。東西4病棟と東7病棟を担当させていただきます。

今までの病棟業務とは異なり分からないことが多く戸惑っていますが、センタースタッフに教わりながら、1日も早く患者様の退院調整や前方連携という大事な役割を行なっていけるよう頑張りたいと思います。

皆様にはご迷惑をおかけする事もあると思いますがよろしくお願いいたします。

みんなで力を合わせて  
頑張るワン！



臨床心理士 中島志保

この4月に地域連携・相談支援センターに赴任しました臨床心理士の中島志保です。相談支援部門で心理相談や自助グループのサポートなどを担当しています。また、小児科や緩和ケア科、精神科から依頼をいただき、心理検査やカウンセリングを行っています。

これまで長く子どもや障害のある方に関わる仕事に就いてきました。そのため、病院という場所で自分に何ができるのだろうか、と当初は戸惑いを感じていました。しかし、目の前にいらっしゃる方のお話を聴き、今ここでできることや必要なことは何だろうか、ということを経験として一緒に考えさせていただくという点は共通していると思いますので、必要な勉強を重ねながら、尽力してまいります。

「ちょっと話を聴いてもらいたい」「最近ぐっすり眠れない」「何だか調子が悪いけどどうしたら良いのか」など、どんなことでも構いませんので、心理士がお役に立てそうなことがあればお気軽に声をおかけください。どうぞよろしくお願い致します。

## 緩和ケアセンターのご紹介

緩和ケアセンター ゼネラルマネージャー  
丸山 美香

当緩和ケアセンターは、院内の「緩和ケアチーム」「緩和ケア外来」「緊急緩和ケア病床」を統括し、切れ目のない質の高い緩和ケアの提供を目指しております。今年4月からは緩和ケア科医師1名が新たに加わり、ゼネラルマネージャー他看護師の顔ぶれも変わりました。心機一転、多職種で力を合わせてチーム活動をしています。また、来春の緩和ケア病棟開設を目指し、新病棟の準備や職員研修の準備を開始しました。今後は、新潟県内のがん患者さんとそのご家族に対する緩和ケアの更なる充実を目指し、都道府県がん診療連携拠点病院の緩和ケアセンターとしての役割を充実させ、発展できるよう活動していきたいと思っております。



緩和ケアセンタースタッフ



新潟県立がんセンター新潟病院 平成30年5月外来診療予定表

		月	火	水	木	金
内科 (金曜Cは新潟大学より)	401診	D 張 高明	A 成澤 林太郎	D 廣瀬 貴之	D 栗原 太郎	B 小山 建一
	402診	C 大倉 裕二	D 今井 洋介	C 大倉 裕二	D 石黒 卓郎	D 今井 洋介
	501診	F 谷 長行	F 谷 長行	F 谷 長行	F 谷 長行	F 谷 長行
	502診	A 青柳 智也	E 大山 泰郎	A 小林 正明	E 大山 泰郎	B 三浦 理
	601診	B 田中 洋史	A 栗田 聡(隔週)	B 三浦 理	A 栗田 聡	B 田中 洋史
	602診	A 塩路 和彦	A 井上 良介	A 佐々木 俊哉	A 塩路 和彦	C 高山 亜美(午前) C 尾崎 和幸(午後)
	201診	B 呼吸器内科医師		B 梶原 大季		B 馬場 順子
	新患 (医師2名 隔週交替) ↓*参照	A 成澤 林太郎	A 青柳 智也	A 井上 良介	A 小林 正明	A 塩路 和彦
		F 谷 長行	D 栗原 太郎	E 大山 泰郎	B 馬場 順子	D 張 高明
		A 佐々木 俊哉	B 小山 建一	B 田中 洋史	C 大倉 裕二	A 栗田 聡
	B 三浦 理	D 石黒 卓郎	D 今井 洋介	D 廣瀬 貴之	B 梶原 大季	
*新患は2名の医師が担当します。当日の担当医については内科外来にお問い合わせください。						
A:消化器 B:呼吸器 C:循環器 D:血液 E:内分泌 F:糖尿病						
小児科	1診	小川 淳	渡辺 輝浩	吉田 咲子	小川 淳	渡辺 輝浩
	2診		第3週専門外来(14:00~)	第3週甲状腺外来	専門外来(11:00~ 1週は移植外来)	吉田 咲子
*新患は紹介状が必要です。						
乳腺外科 消化器外科	1診	長谷川 美樹(乳腺)	藪崎 裕(胃)	野村 達也(肝胆脾)	中川 悟(食道・胃)	瀧井 康公(大腸)
	2診	金子 耕司(乳腺)	松木 淳(胃)	瀧井 康公(大腸)	番場 竹生(食道・胃)	丸山 聡(大腸)
	3診	遠藤 麻巴子(乳腺)	會澤 雅樹(胃)	神林 智寿子(乳腺)	角田 知行	野上 仁(大腸)
	4診		林 裕樹	高野 可赴(肝胆脾)		渡辺/井田/山田
	予防センター-乳腺		金子 耕司	長谷川 美樹	神林 智寿子	神林 智寿子
*乳腺外科は原則予約制です。						
呼吸器 外科	1診	吉谷 克雄	青木 正	岡田 英 (~AM10時まで)	青木 正 (~AM10時まで)	吉谷 克雄
	2診		岡田 英			岡田 英
整形外科	新患	吉谷 克雄		吉谷 克雄 (AM10時~)	吉谷 克雄 (AM10時~)	吉谷 克雄
	再患	骨転移外来 島野/佐々木 [隔週交替]	島野 宏史	小林 宏人	佐々木 太郎	酒井 瑛平
	再来	小林 宏人	佐々木 太郎		島野 宏史	小林 宏人
*完全紹介制です。						
神経内科 (新潟大学より)		茂木 崇秀		二宮 格		
精神科 (午前のみ)			小林 真理		小林 真理	小林 真理
*当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。完全紹介制・完全予約制です。						
脳神経外科	1診	高橋 英明		五十川 瑞穂	高橋 英明	五十川 瑞穂
	2診	五十川 瑞穂		高橋 英明	五十川 瑞穂	高橋 英明
	3診					宇塚 岳夫 (4週の午後)
婦人科	1診	横尾 朋和	菊池 朗(午前)	菊池 朗	横尾 朋和	吉田(1,3,5週) 横尾(2週) 菊池(4週)
	2診	吉田 邦彦	木谷 洋平	吉田 邦彦	菊池 朗(予約のみ)	木谷 洋平
	3診		笹川 基(午前)	遺伝性乳がん 卵巣がん外来 (大学・西野)	遺伝性乳がん 卵巣がん外来 (大学・須田)	
皮膚科	1診 (主に新患)	高塚 純子	結城 大介	竹之内 辰也	竹本 景太	高塚(1,3,5週) 結城(2,4週)
	2診 (主に再来)	結城 大介	竹之内 辰也	結城(1,3,5週) 高塚(2,4週)	高塚 純子	竹之内 辰也
	3診	竹本 景太	竹本 景太	竹本 景太	結城 大介	竹本 景太
泌尿器科	1診	谷川 俊貴	乾 幸平	齋藤 俊弘	齋藤 俊弘	谷川 俊貴
	2診	小林 和博	山口 峻介	小林 和博	山口 峻介	乾 幸平
*新患は紹介状が必要です。						
眼科	1診	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭	原 浩昭
	2診			佐藤 敬子(午前)	佐藤 敬子(午前)	佐藤 敬子(午前)
頭頸部外科	1診	佐藤 雄一郎(再来)	富樫 孝文(新患)		佐藤 雄一郎(新患)	倉橋 崇史(新患AM)
	2診	高橋 剛史(新患)	高橋 剛史(再来)		富樫 孝文(再来)	富樫(1,3,5週PM)
	3診	富樫 孝文	倉橋 崇史		高橋 剛史	
放射線 治療科	1診	杉田 公	杉田 公	杉田 公	杉田 公	杉田 公
	2診	松本 康男	松本 康男	松本 康男	松本 康男	松本 康男
	3診	鮎川/金本	鮎川/金本	鮎川/金本	鮎川/金本	鮎川/金本
*木曜日・金曜日は新患の対応ができない場合があります。						
麻酔科	1診	富田 美佐緒	丸山 洋一	富田 美佐緒	富田 美佐緒	渋谷 智栄子
	2診	渋谷 智栄子	富田 美佐緒	渋谷 智栄子	渋谷 智栄子	高松 美砂子
術前		阿部 崇	阿部 崇	阿部 崇	阿部 崇	阿部 崇
形成外科		2,4週 13~14時(再来)		坂村 律生	坂村 律生	
緩和ケア科	午前/午後	本間 英之	中島真人	本間 英之	本間 英之	本間 英之
*当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。						
*原則新患1日2名になります。新患依頼は外来へお問い合わせください。						
歯科口腔外科 (日本歯科大学より)	午前/午後	午前/午後	午前/午後	午前/午後	午前/午後	午前/午後
*当院に受診中であり、主治医より紹介された方のみ対象です。						

新潟県立がんセンター新潟病院 地域連携・相談支援センター(地域連携部門)

TEL:025-234-0011 FAX:025-234-0022 受付時間 月~金 8:30~19:00

がんセンター新潟病院 URL: <http://www.niigata-cc.jp>

原則として予約日当日に行える検査はCT、腹部超音波、MRI、食道・胃・十二指腸内視鏡、PET-CT

時間外のFAXについては、平日夜は翌朝、金曜夜から日曜は月曜の朝にお返事申し上げます